

『地産地消』を学ぶ… 旬ちゃんあらわる！

今週は、「給食週間」です。2回のセレクト給食がありました。わたしはいっしょの席の子どもさん（5年生でお世話になっています）の、自分とは違う選択メニューのお皿をのぞき込んで、「ああ、あれも食べたかったな」と、欲ばりなことを考えています（どちらが子どもか分からない）。

「食器をもって食べる」「ひじをつかない」などのめあてが日替わりで提示されたり、給食身支度調査の結果発表がされたりと、先日の児童集会での給食委員会発表とともに、この週間が「日常の給食マナー」を振り返るよい機会となっています。

さて、先週21日（水）、市町村及び学校給食連携事業の一環として、全農長野、協同乳業、地域の酪農家さん、県農政部の

方々が来校されて、「旬ちゃんと地産地消について学ぼう」という学習の機会を設けてくださいました。「地産地消」について分かりやすく話してください、また搾乳体験やバター作り体験など、「食」を身近に感じる内容も盛り込まれていました。地産地消推進キャラクターの「旬ちゃん」も登場して、ふれ合いや記念撮影の機会もあり、子どもたちも大喜びでした。わたしは搾乳体験用の「牛さん模型」にびっくりでした。何と、ホルスタインの半身模型に実物のような乳房があり、搾乳がほぼ本物に近い感じ（色水が出ます）ので



旬ちゃん登場



お乳が出たよ

加工されていない牛乳を振り続けると、バターが沈殿してくる、わたしが子どもの頃に夢見たような（アルプスの少女？）体験もさせていただきました。

給食食材がより身近になる

とともに、何よりも食材の生産や流通に携わる方の顔が見える機会、地域食材への関心や感謝の気持ちが高まる貴重な機会を提供していただいたと思います。ありがたいことです。今日のように、おいしくて、栄養バランスのとれたおいしい給食をいただけることを、当たり前にはいけないのだと思います。今日も感謝して、おいしくいただくと思っています。

生産者の方々と交流給食

お米や野菜、牛肉やリンゴを給食に提供してくださっている方々をお招きしての交流給食が催されました（29日）。塚原勝幸副村長様、飯森 力教育長様、あさつゆ直売組合の中山一雄様、関崎由美子様、清水牧場の清水 大様、地域おこし協力隊の伊藤 快様が来校くださいました。健康委員児童からの「野菜やお米を育てるうえで気をつけること」

「飼育している牛の数」「作っているリンゴの品種」などの質問に、それぞれ丁寧にお答えくださいました。おいしい給食食材を提供してくださっている方々と、直にふれ合うことのできる機会となりました。



「安全においしくを心がけています」

読書旬間が始まります（12月3日から14日まで）

28日（水）に、図書委員会による児童集会発表がありました。4編の詩『わるくち』『ちょっと出かけてくるわ』『お経』『子どもだいこ』の『群読』（一人または複数・集団で読み声の音量や速さを違えての読み表現）による発表がありました。誌面での詩の味わいとはまた異なる、声の表現で伝えられる魅力に、全校児童がひきこまれました。



群読『お経』より

「おすすめの本」の紹介も、ポスターを示しながら、その本の魅力を端的に、そしてはっきりした声で伝えてい



おすすめの本の紹介

ました。全校の友だちに届く声の大きさになるように、そして抑揚をつけることで込められた作者の願いや表現の楽しさが伝わるようにと取り組んできたであろう、ここまでの道のりがありありと思い描ける発表でした。担当の先生にお聞きすると、委員児童の「こんな感じを表現したい」「こんなふうにすれば伝わるのでは」という気づきや表現の工夫を取り入れてきたとのこと。また、限られた休み時間に、委員児童と担当の先生方が繰り返し発表練習をしている姿を目にしてきました。それらがあって、この発表となったのだと思います。本や詩集に親しむことの楽しさの幅を拡げてもらえたことを、とてもうれしく思いました。